

SDGSを目指した町造り ～小松の近現代史をふり 返る～

平野 優（小松市史専門委員）

2021/11/28

1. 幕末維新から近代国民国家設立へ

▶ 1) 国民国家創出への苦闘

- ▶ 封建割拠制の幕藩体制から中央集権国家への大転換...主権・領土・国民の確立と地域社会の動揺・混乱→国家の義務と国民の義務⇒戊辰戦争(M1)、西南戦争(M10)、民権運動(M25)と小松

▶ 2) 欧米列強への対抗と富国強兵政策

- ▶ 産業振興、軍事力強化と保健・医療・福祉・教育の充実...富国強兵政策＝健民健兵政策⇒尾小屋鉱山、能美郡博覧会、物産陳列館、小松商工会、伝染病、窮民対策等

▶ 3) 中央集権国家と地方分権社会の相克

- ▶ 近代国家と戦争...内戦と騒乱から対外戦争へ...ナショナリズムの高揚と大日本帝国の創出→国民統合と軍事強国⇒動員令、徴兵制、軍人扶助等、皇太子行啓、御大礼奉祝行事、愛国婦人会、国防婦人会、学校教練、御真影等
- ▶ 地方社会の疲弊と困窮...対外戦争の続発と景気変動の波が地方社会を直撃→1894日清戦争、1904日露戦争、1914第一次大戦、1921シベリア出兵、1931満州事変、1937日中戦争、1941太平洋戦争⇒町村合併、市制誕生＝徴税、徴兵、戸籍作成、学校経営、防疫・防災能力等の運営管理強化

2. 戦後民主改革と高度経済成長

1) 戦後の混乱と復興

- ▶ 敗戦後の窮乏と生活物資の不足...衣類、食糧、医薬品、日常生活物資等の不足と配給制→衣類、真綿、靴下、靴、ゴム類、米、鮮魚等の配給制と配給券
- ▶ 市営住宅と市営運動場...市営住宅の建設（鉄筋・木造）と競馬場埋め立て工事による市営運動場（野球場、陸上競技場等）＝「末広運動公園計画」→貧民救済対策
- ▶ 縮小する小松とその対策...小松市人口6万9,808人（S20）から6万2,015人（S28）人口減少→出生率低下、転出増加⇒織物等の主要産業不振

2) 昭和の合併と新小松市の発展

- ▶ 昭和の合併と大小松市への躍進...国民健康保険の実施と保健・医療・福祉の充実、新制小中学校の設立と新制高校、高等教育機関の設立、社会教育機関の設立→「健康で文化的な生活を営む権利」（憲法25条）の保障へ
- ▶ 社会インフラ整備と産業都市小松への飛翔...交通網の整備、公共施設・設備の充実、大規模開発の完成等→国道8号線、小松バイパス、北陸自動車道、小松明峰駅、南加賀公設市場、大日川ダム、赤瀬ダム、加賀三湖干拓事業等

▶ 3) 小松飛行場の変遷と鉍毒問題への苦闘

- ▶ 海軍飛行場から米軍管理へ...「神雷部隊」(特攻隊)基地(S20)から米軍管理の民間飛行場へ(S28~)→米軍から日本政府に返還(s33)
- ▶ 防衛庁管轄のジェット機基地と運輸省管轄の民間飛行場の並存...反戦平和・生活環境防衛運動と防衛力向上・経済効果増大運動の対立→防衛庁と飛行場対策協議会、運輸省との協定締結(騒音・安全航空対策)⇒「北陸の空の玄関」と「日本海防衛の要」への飛翔
- ▶ 尾小屋鉍山と富国強兵政策...軍部需要と鉍山開発→煙毒・鉍毒水による農林業への被害と健康被害に対する請願書⇒人的資源、食糧資源、林産資源のダメージは戦争遂行にマイナス(軍部への配慮)
- ▶ 終戦直後から能美地方事務所で鉍山煙害調査...昭和20年代~30年代に鉍毒被害さらに増大⇒鉍毒対策同盟設立と鉍毒・石灰補償金配分
- ▶ カドミウム汚染の衝撃と河川・土壌汚染対策...昭和40年代~50年代生産米の出荷停止と農家の衝撃⇒産米補償と土壌改良対策60年代
- ▶ カドミウム汚染田の指定解除...昭和52年~昭和63年まで土壌改良工事を実施→土壌・生産米のカドミウム濃度調査平成元年~4年まで

3. バブル崩壊後の景気低迷と行政需要

▶ 1) 財政悪化と企業誘致

- ▶ 小松鉄工団地を造成（s 48年）...石油危機後の景気低迷下で臨空産業都市への飛躍を目指す（s 56年）完成→バブル崩壊後の景気低迷下で「南部工業団地」、「東部産業振興団地」、「矢田野工業団地」、「串地区工業団地」等を次々と造成⇒法人税と勤労者の所得税・住民税・社会保険税・消費税等の税収アップと財政基盤の強化（環境対策 I S Oの適合）

2) 行政需要の増大と社会資本の整備

- ▶ 産業振興、交通網整備、環境保全、教育・文化、医療・福祉、治安・防災、国際交流等、市民の行政需要は急増...対応するためには新庁舎を始め公共施設、道路網等の新增設やスタッフの確保、運用・保全・管理等の経費が増大

▶ 3) 開発と環境の相克

- ▶ 産業開発や交通網整備、団地造成等...自然環境保護や伝統文化保存との対立・軋轢→医療・福祉、治安・防災当の市民協力要請とプライバシーの権利の相克

▶ 4) 少子高齢化と人口減社会の現出

- ▶ 開発と環境の相克を解決するためには市民生活の安全・安心・アメニティの充実が不可欠...社会的包摂とコミュニティネットワークの構築が不可欠→N P O, N G O, ボランティアネットワーク創出への取り組み（官民協力型コミュニティ）

4・SDGSを目指した新たな町づくり

▶ 1) 北陸新幹線小松駅開業とバックキャスティング

- ▶ 「新幹線時代を見据えたまちづくり」...あるべき将来像をまず描き、その実現に向けて政策・施策を展開する「バックキャスティング」戦略を実施→駅前三点セット、新小松駅開設、コマツの杜、「コマツウエイ総合研修センター」、「サイエンスヒルズこまつ」、「カブツキーランド」、公立小松大学設立等。

▶ 2) 第66回全国植樹祭（H27）とSDGS未来都市選定（R1）

- ▶ 第66回全国植樹祭開催...天皇・皇后両陛下が木場潟公園会場に→「ふるさとこまつを未来へつなぐ条例」制定⇒①自然環境保全、②文化の保存、③産業の発展、④社会変化の先取り
- ▶ 「SDGS未来都市」に選定...SDGS（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発のための2030アジェンダ）2015年国連サミットで採択→2016年～2030年までの持続可能な世界を実現するための国際目標⇒17のゴールと169のターゲットで構成